



た。尚、初代の会長は本校の劉海洋学院長が務めることになりました。
う！ まず、薬膳に関する私達が、元気で心も身体も美しく質の高い生活の実践者となっていきました。

また、成城弦楽4重奏の美しい調べに心を酫やかになった、参加した40名の皆さんには薬膳に対する熱い思いを語り、和やかなうちはお祝いのお言葉をいたしました。

ご来賓には富山から料亭川柳の大島政文代表取締役、東京からは東洋学術出版社の山本勝曠代表取締役、東京誠心学園調理師専門学校の廣瀬喜久子理事長など、薬膳に造詣の深い方々にそれなりました。

また、成城弦楽4重奏の美しい調べに心を酫やかになった、参加した40名の皆さんには薬膳に対する熱い思いを語り、和やかなうちはお祝いのお言葉をいたしました。

人誠心学園東京誠心調理師専門学校にて国際薬膳調理師の資格認定試験が実施され、今年、十八名の合格者が誕生しました。これを受け薬膳の学術レベルを上げ、さらに薬膳学を発展させるため、「日本国際薬膳師会」を発足致しました。現在、会員は五十二名になります。

中国薬膳研究会は二〇〇〇年から第一回目の国際薬膳師（士）の資格認定試験を実施以来、国際薬膳師（士）の資格を取得した方は六十八名となりました。加えて二〇〇三年から、学校は秋晴れのさわやかな空の下、十一月二十三日（祝）午後一時から学士会館に於いて日本薬膳師会設立記念大会が開かれました。

日本国際薬膳師会 設立記念大会のご報告

平尾安基子

2005年国際薬膳師試験のお知らせ

日時：
4月23日(土)・24日(日)
場所：未定（東京都区内）
試験対策補講：
3月18日(金)～20日(日)
場所：本草薬膳学院



来賓の東洋学術出版社山本勝司社長の挨拶



日本国際薬膳師会

設立記念大会記事



「日本国際薬膳師会」が平成16年6月に発足して以来、多くの方々のご尽力を経て、平成16年11月23日（火）にご来賓をお迎えし、事務局、会員以下40数名が集い「日本国際薬膳師会設立記念大会」が学士会館にて盛大に開催されました。

海老原事務局責任者の開会の言葉により、記念大会の幕が上がりました。会長挨拶では、辰巳洋会長より、日本薬膳師会設立までの経緯と今日の設立記念大会を迎えた意義についてのお話がありました。

来賓挨拶では、富山薬膳研究会会長、和食薬膳料亭川柳代表取締役大島政文様からは、日本国際薬膳師会が設立され今日を迎えたことは、日本の中医薬膳研究の歴史にとって記念すべき日となった。今後、広く医師会や薬剤師会に働きかけ、眞の意味での食による健康づくりの中心になっていくことを期待するというお話がありました。続いて東京誠心調理師専門学校・理事長廣瀬喜久子様からは、これからの中食からの健康づくりには、薬膳への期待がますます高まっている。もっともっと若い調理人が和と薬膳の道に関心を持ってほしい。そんな意味からも、今後この日本国際薬膳師会に期待するところが大きいというお話がありました。続いて、東洋学術出版社代表取締役山本勝曠様からは、東洋学術出版社は古くから中医学の日本語紹介に手がけてきた。今後も皆さんの要望に応え中医学を中心に内容を充実して中医学への架け橋となっていきたい。

次に、役員紹介、理事の承認の後、今年度の日本国際薬膳師会活動方針が報告されました。学術部からは、定例研修会、特別講習会、学術発表等が報告されました。事業部からは、商品開発、食品、生薬、薬茶、書籍などの紹介と販売等が報告されました。広報部からは会報の発行、本会、事業の宣伝、会員による薬膳メニュー集の作成などが報告されました。国内外交流部からは、各学術団体・組織との交流、国内外での学術会議、コンテスト、国際交流への参加などが報告されました。最後に事務局より事務、会計等の一般業務、会員への周知などが報告されました。

次に、本会に期待することとして、会員から本会への熱い期待が語られました。

記念講演では、本会の会長でいらっしゃる辰巳洋（劉海洋）先生から「国際薬膳師への期待」と題して次のようなお話がありました。

21世紀は人類の健康と長寿の世界を迎えようとしている。全世界的に高齢化が進み、その中で人類が健康で幸せに暮らしていくためには、伝統ある中医学の養生法に基づく薬膳学が更に重要視され脚光を浴びてきている。日本はもとより全世界的に、今後、健康、長寿のため、予防、食療、体质増強、老化防止などに対し、理論と実践を結びつけた国際薬膳師の活躍がますます大きく期待されてきている。

本草薬膳学院が本会設立に大きな力となった。今まで本校の活動は、中国薬膳研究会主催「第3回中国薬膳料理コンテスト」（北京）への参加と優秀な成績、第2回国際東方薬膳食療学術シンポジウム（上海）への参加、2004中日食療薬膳学術シンポジウム（南京）の計画と実施など本場中国を巻き込んで日頃の薬膳学術研究の成果を発表し、本会発展への大きな礎となりました。今度、本会が中心となり日本各地に薬膳研究のネットワークが広がるとともに、中国の薬膳研究の高い評価に習い、日本において薬膳研究が一つの学術研究の分野として高められ、健康増進の要となるよう会員と本日本国際薬膳師会の活躍と発展を期待するというお話があり、最後に会員の今後の活躍への固い決意で幕を閉じました。

その後、記念撮影、懇親会、記念演奏「成城アンサンブル」ティータイム・自己紹介があり、およそ、2時間の設立記念大会でしたが、日本の薬膳の研究と実践の歴史に大きな1ページとなる大会であったと思われます。（向平決）

